

# 世界中の誰とでも コミュニケーションが取れる社会

日本人が活躍できる未来を目指して

未来をつくるネットワークを考える会 次世代リーダーグループ  
チームCCCC（トリプルシー）

# チームCCC（トリプルシー）紹介

## Cross Culture Communication

言語や文化の壁を越えて、  
世界中の誰とでもコミュニケーションが取れる社会を目指す



日本電信電話株式会社  
原田拓弥



株式会社ナカヨ  
三浦良太



沖電気工業株式会社  
杉野康行



京セラ株式会社  
塩沢英輝



日本電気株式会社  
平塚悟史

# ターゲットライフシーン

## 国境を越えて、日本人の世界が広がる未来へ

誰とでも自由に、自信を持って交流できるように

-個人の場合-



- 言語の心配が無くなる
- 世界中の文化を体験できる
- もっと気軽に海外旅行へ

このままの世界



私たちの目指す世界

- 海外へ行きたくても行けなかった
- 外国語が解らず、話しかけられてもうまく対応できなかった
- 映画や本は翻訳されるまで楽しめなかった



より積極的に、海外進出できるように

-企業の場合-



私たちが着目した点

- 世界の市場を開拓できる
- 国境を越えて優秀な人材を確保
- 人件費や材料費のコスト削減

このままの世界



私たちの目指す世界

- 人口減少により国内市場は縮小
- 海外進出したくても外国語が話せる人材が足りない



# なぜ海外進出に着目したか？

## 海外進出が求められる理由

- 日本は少子高齢化により総人口および労働人口が減少  
→ 国内の市場規模が縮小
- 世界の人口は増加  
→ 海外市場の成長は日本に比べて大きい

## 語学力の課題

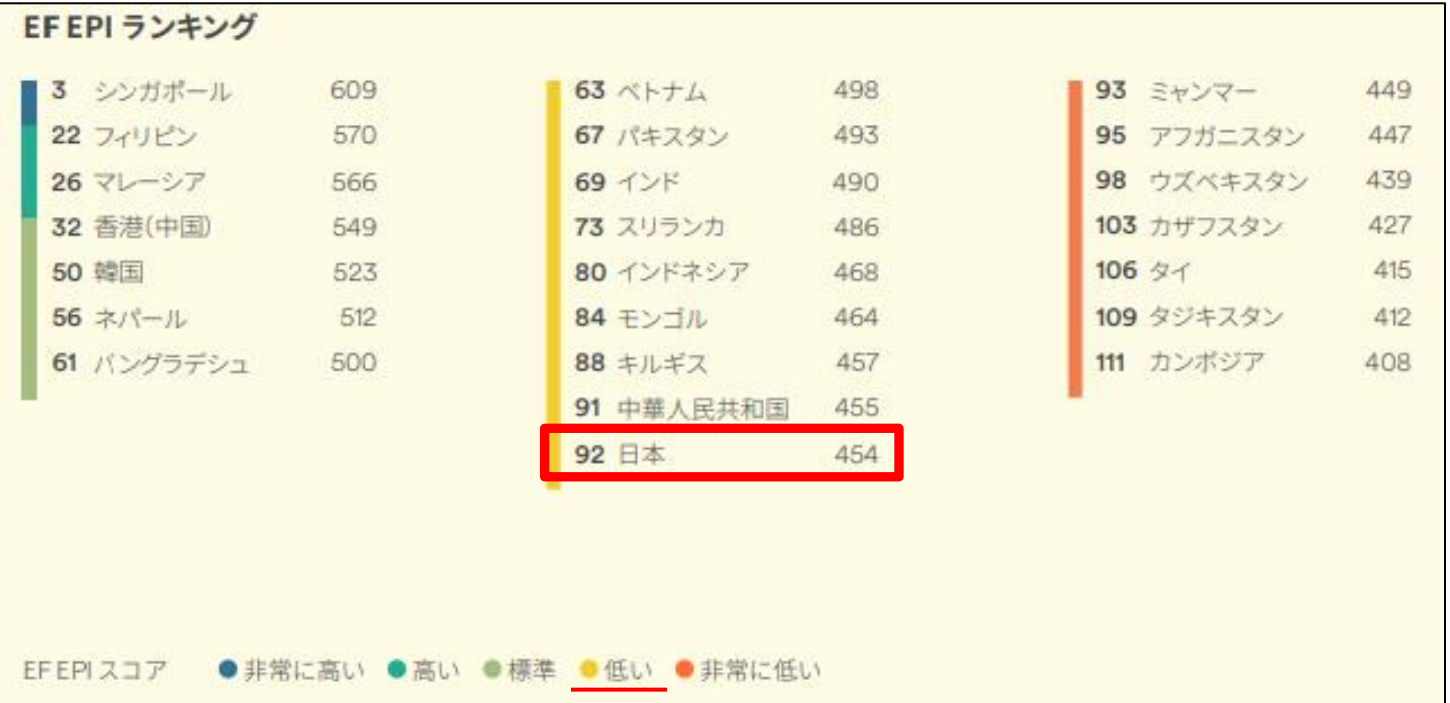
- 日本の英語力は116カ国中92位と低く、このままでは世界でビジネス展開をする上で後れをとり、経済成長が停滞したままになりかねない

## 社会的意義

- 総務省国際戦略局が出した「総務省海外展開行動計画2025」において、ポストコロナ後の日本の抱える課題として、国内の少子高齢化や市場の縮小・生産人口の減少への懸念があり、海外展開の推進を提唱している
- 重点分野はネットワーク・インフラ・セキュリティ・ICTソリューションなどのデジタル分野
- 東南アジア・大洋州・南アジア・中央アジア・北米・欧州・中東・アフリカなど国・地域の特性に応じた展開・連携

| 順位 | 2015年   |       | 2030年   |       | 2050年   |       |
|----|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
|    | 全世界     | 7,349 | 全世界     | 8,501 | 全世界     | 9,725 |
| 1  | 中国      | 1,376 | インド     | 1,528 | インド     | 1,705 |
| 2  | インド     | 1,311 | 中国      | 1,416 | 中国      | 1,348 |
| 3  | 米国      | 322   | 米国      | 356   | ナイジェリア  | 399   |
| 4  | インドネシア  | 258   | インドネシア  | 295   | 米国      | 388   |
| 5  | ブラジル    | 208   | ナイジェリア  | 263   | インドネシア  | 322   |
| 6  | パキスタン   | 189   | パキスタン   | 245   | パキスタン   | 310   |
| 7  | ナイジェリア  | 182   | ブラジル    | 229   | ブラジル    | 238   |
| 8  | バングラデシュ | 161   | バングラデシュ | 186   | バングラデシュ | 202   |
| 9  | ロシア     | 143   | メキシコ    | 148   | コンゴ     | 195   |
| 10 | メキシコ    | 127   | ロシア     | 139   | エチオピア   | 188   |
| 11 | 日本      | 127   | エチオピア   | 138   | メキシコ    | 164   |
| 12 | フィリピン   | 101   | フィリピン   | 124   | エジプト    | 151   |
| 13 | エチオピア   | 99    | コンゴ     | 120   | フィリピン   | 148   |
| 14 | ベトナム    | 93    | エジプト    | 117   | タンザニア   | 137   |
| 15 | エジプト    | 92    | 日本      | 117   | ロシア     | 129   |
| 16 | ドイツ     | 81    | ベトナム    | 105   | ベトナム    | 113   |
| 17 | イラン     | 79    | イラン     | 89    | ウガンダ    | 102   |
| 18 | トルコ     | 79    | トルコ     | 88    | 日本      | 97    |
| 19 | コンゴ     | 77    | タンザニア   | 83    | トルコ     | 96    |
| 20 | タイ      | 68    | ドイツ     | 79    | ケニア     | 96    |

出典：世界の人口推計（人口予測）と人口ランキングの推移 - ファイナンシャルスター



出典：EF EPI 英語能力指数ランキング（アジア抜粋）

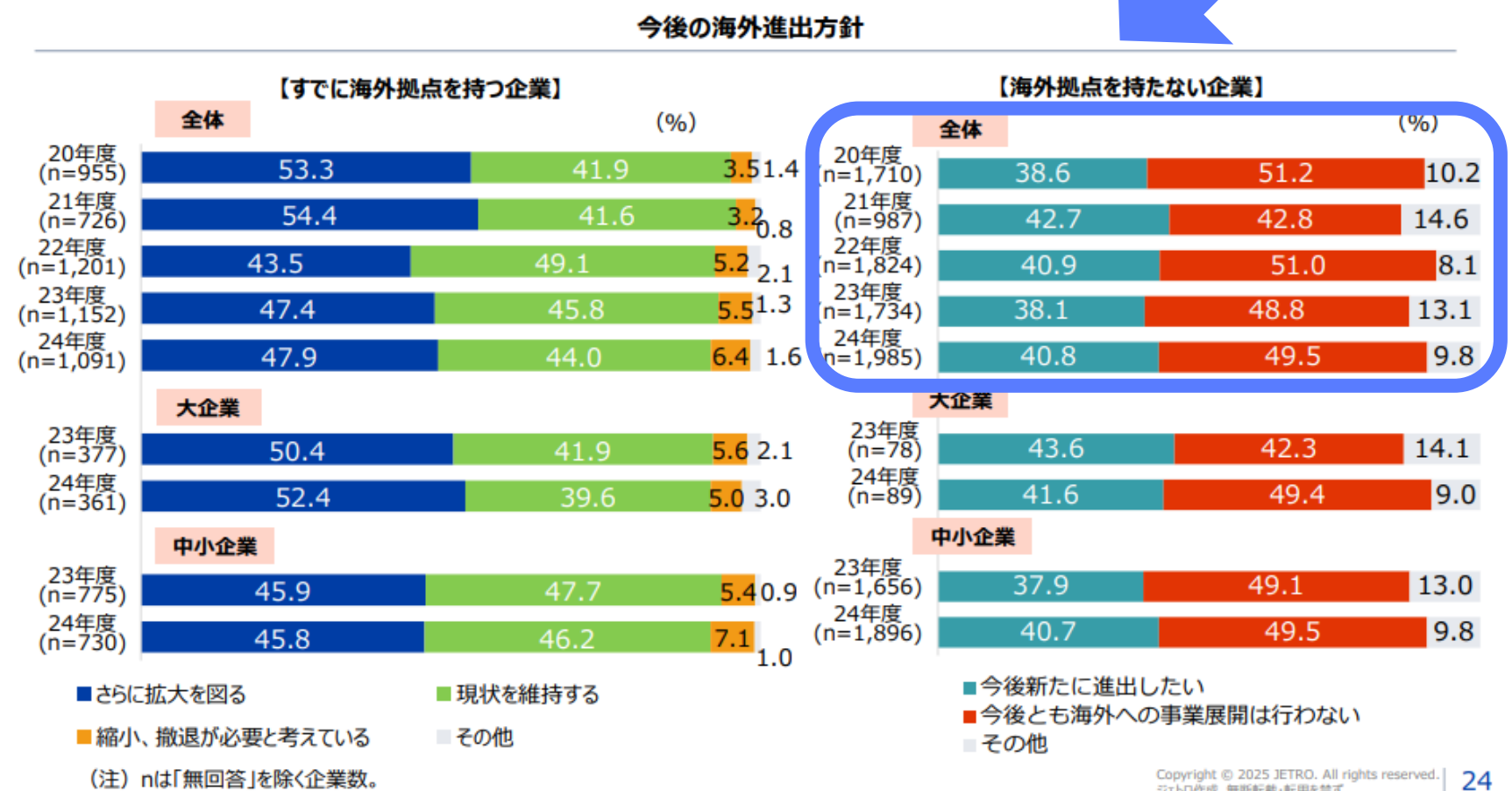
# 海外進出に対する日本企業の現状

今後、海外へ進出したい企業は約4割

## 4割以上の企業が「新たに進出したい」

JETROが公開する「2024年度 日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査」によると、海外拠点を持たない企業のうち「今後新たに進出したい」とした企業は約4割であり、前年から微増。

ここ数年のアンケートではほぼ横ばいの結果が続いていることから、**海外進出に対する需要は根強く存在**するものの、一方で実現に際しては数多くの課題があり、**思うように進出できていない**と考えられる。



出典：JETRO「2024年度 日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査」

# 日本企業の海外進出 成功・失敗事例

## 成功例と失敗例

### 小売、サービス業

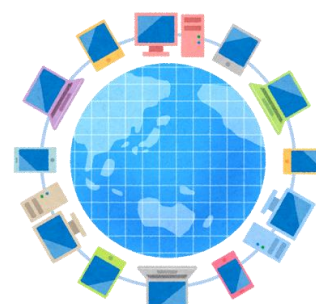


現地ニーズに合わせた商品開発やサービス提供により、高い顧客満足度を獲得。

主な**成功要因**：

- 文化の違いに合わせた人材育成
- 現地パートナーとの協力関係、フランチャイズ展開
- 現地の文化や嗜好に合わせた商品開発

### インターネットサービス業



日本のビジネスモデルをそのまま持ち込もうとしたため、現地の競合企業との価格競争に対応できず撤退。

主な**失敗要因**：

- 現地企業とのパートナーシップ構築の失敗
- 市場の競争環境や**消費者ニーズ**の理解不足
- 現地文化への対応不足

### アパレル製造小売業



過去の海外進出失敗を元に、ローカライズするだけでなく、現地のニーズや文化を製品開発や運営に活かすことで成功。

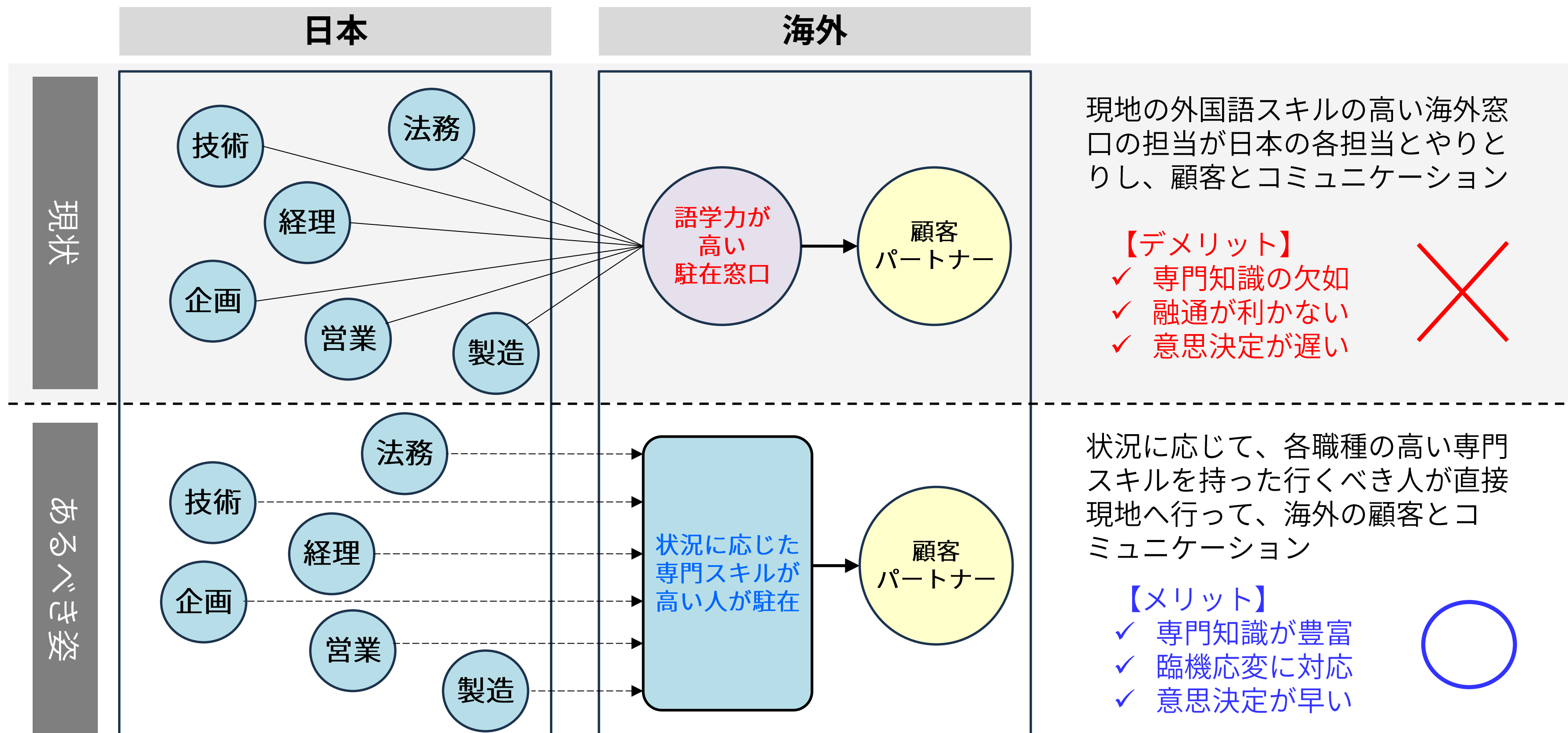
主な**成功要因**：

- 現地に合わせたターゲティング
- ブランド認知度を高めるプロモーション戦略
- 現地人材への**企業理念の浸透**

事例から学ぶ企業の課題は、現地市場や文化の理解、現地でのコミュニケーション、そして自社ビジネスのローカライズ。

→ **成功のカギは、自社の業務や理念に精通した人間が、現地で綿密なコミュニケーションを取ること。**

# 海外進出の成功率を上げるためには？



# 外国語と専門スキルを備えた人は少ない

## 国際指標「CEFR」におけるビジネスで英語を使用する際に求められるレベル

B2以上の日本の分布

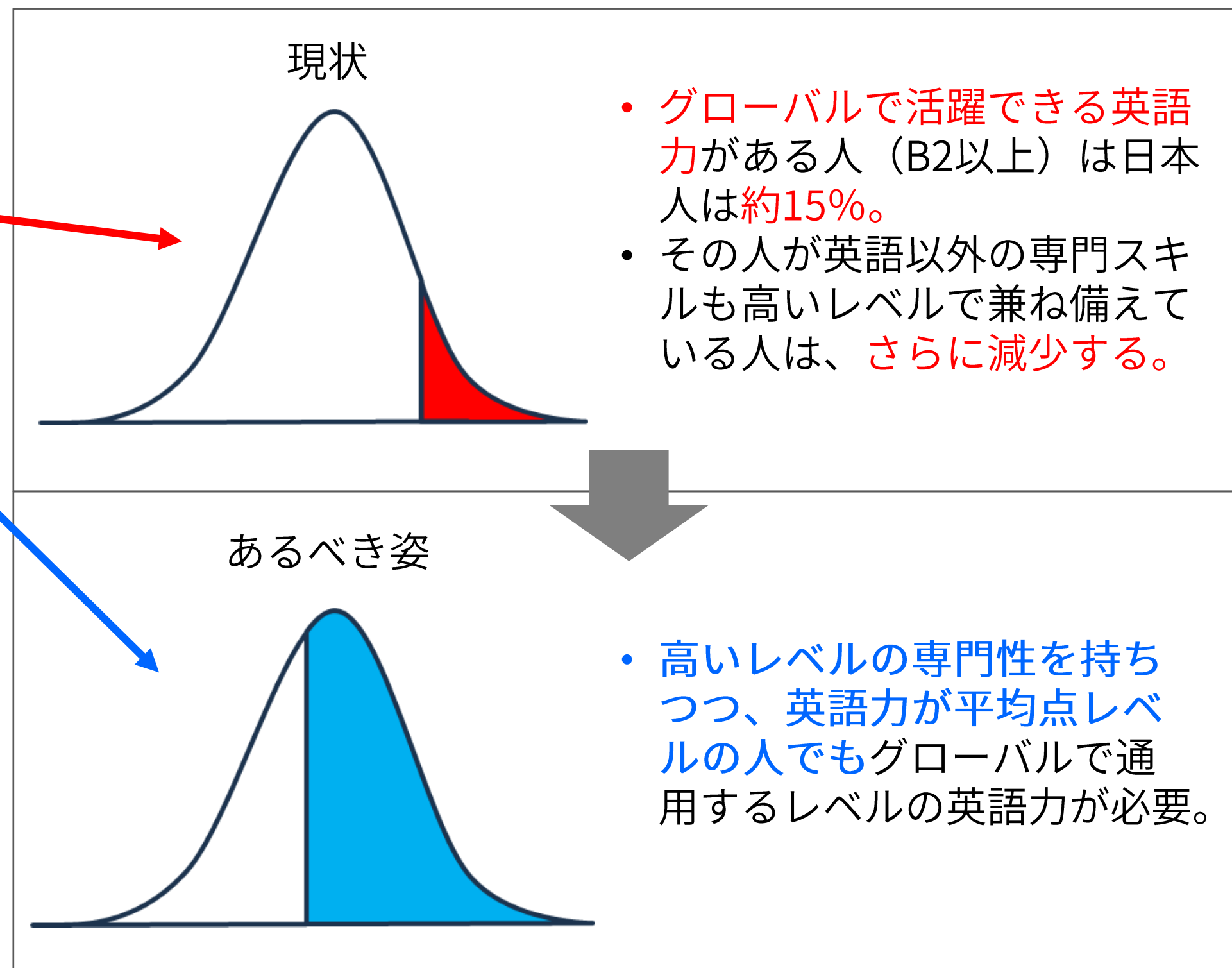
| CEFRレベル |    | ビジネス英語で求められるレベル    |
|---------|----|--------------------|
| 熟達者     | C2 | 海外グローバル企業で活躍できるレベル |
|         | C1 |                    |
| 中級者     | B2 | 英語で責任ある仕事ができるレベル   |
|         | B1 | 日本の社会人平均点レベル       |
| 初級者     | A2 |                    |
|         | A1 |                    |

CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）とは？

言語能力を6つのレベル（A1, A2, B1, B2, C1, C2）で分類し、学習者のスキルを標準化する国際的な指標です。

Aは基礎、Bは中級、Cは上級を示し、それぞれ読む、聞く、話す、書く力を評価します。教育や試験で多く使われています。

※B2レベル：英検準1級、TOIEC785～945点 相当



# 企業が取り組むべき課題

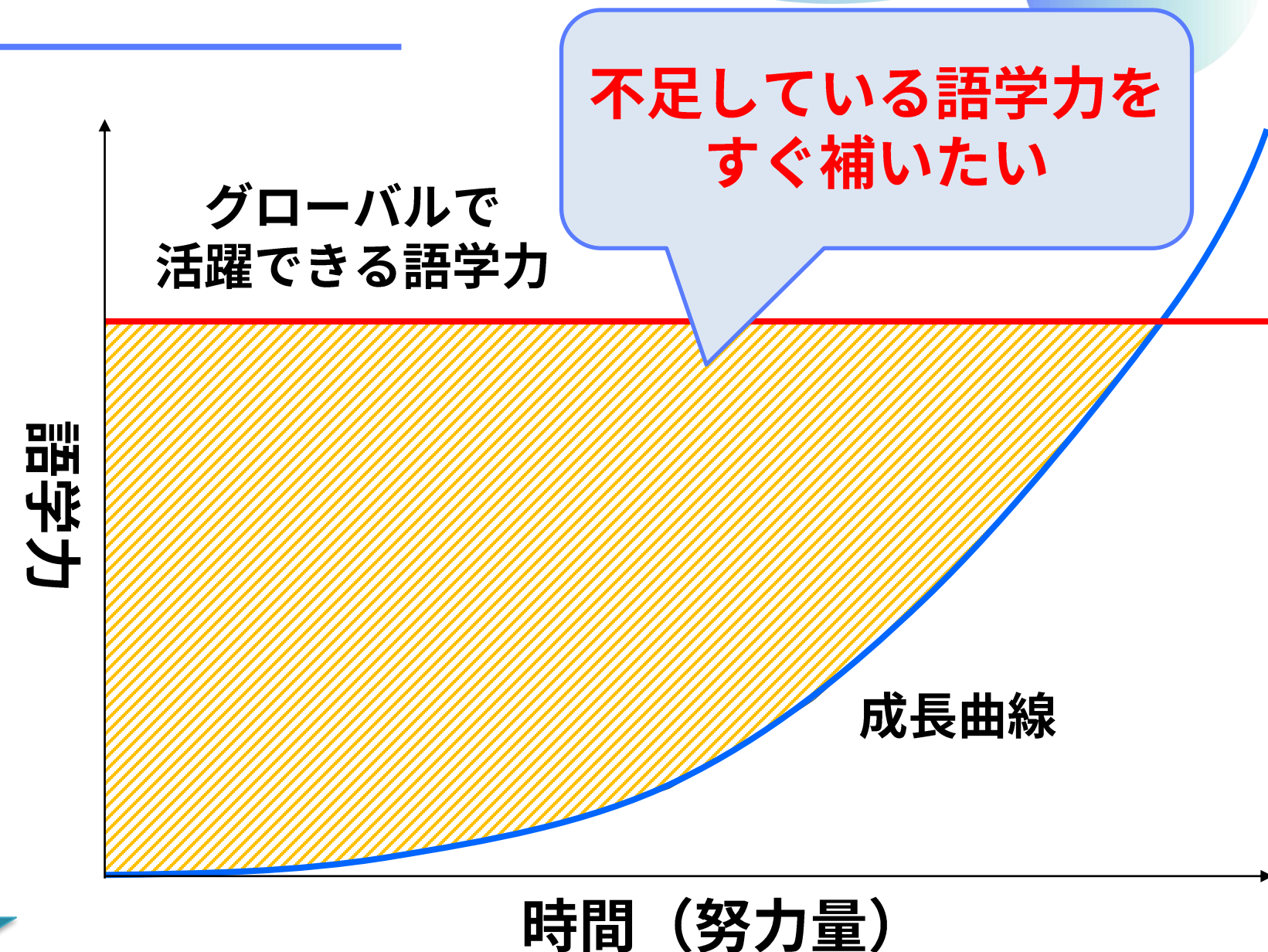
専門性：業務の中で身につく✓



語学力：業務では向上しにくい✕



語学研修：時間とコストがかかる✕



## 企業の課題

語学力不足の専門性をもった企業内ボリューム層を  
短期間で海外現地でいかに活躍させるか

# 解決策コンセプト

## 現在の語学の解決手段

| 選択肢     | 習得難易度 |     |    | コミュニケーション |      |     |      | メリット／デメリット                         |
|---------|-------|-----|----|-----------|------|-----|------|------------------------------------|
|         | 時間    | コスト | 労力 | 円滑性       | 文化理解 | 専門性 | 信頼関係 |                                    |
| ①外国語を習得 | ×     | △   | ×  | ◎         | ○    | ○   | ◎    | 習得に時間を要し、現状ビジネスレベルで達成できている日本人は少ない。 |
| ②通訳を雇用  | ○     | ×   | ○  | △         | ◎    | △   | △    | コストが一番ネック。コミュニケーションも本人が話すよりかは劣る。   |
| ③翻訳機を使用 | ◎     | ○   | ◎  | ×         | ×    | ×   | ×    | 導入の壁は最も容易。しかし、現状はコミュニケーションに難がある。   |



解決策コンセプト

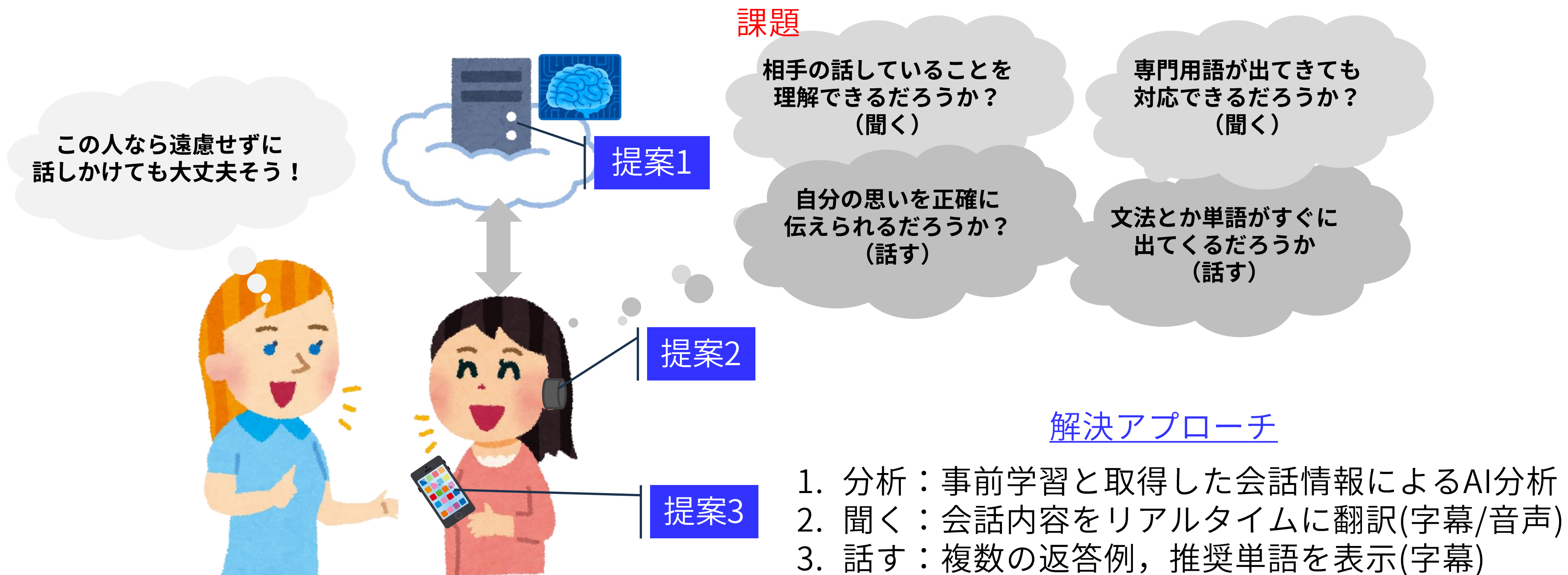
## 会話をリアルタイムにアシストできる補助輪機能を提供



|                   |   |   |   |   |   |   |   |                                            |
|-------------------|---|---|---|---|---|---|---|--------------------------------------------|
| ④リアルタイム<br>会話アシスト | ◎ | △ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | スキル習得不要で、専門スキルを持った人が短期間で海外現地でコミュニケーションできる。 |
|-------------------|---|---|---|---|---|---|---|--------------------------------------------|

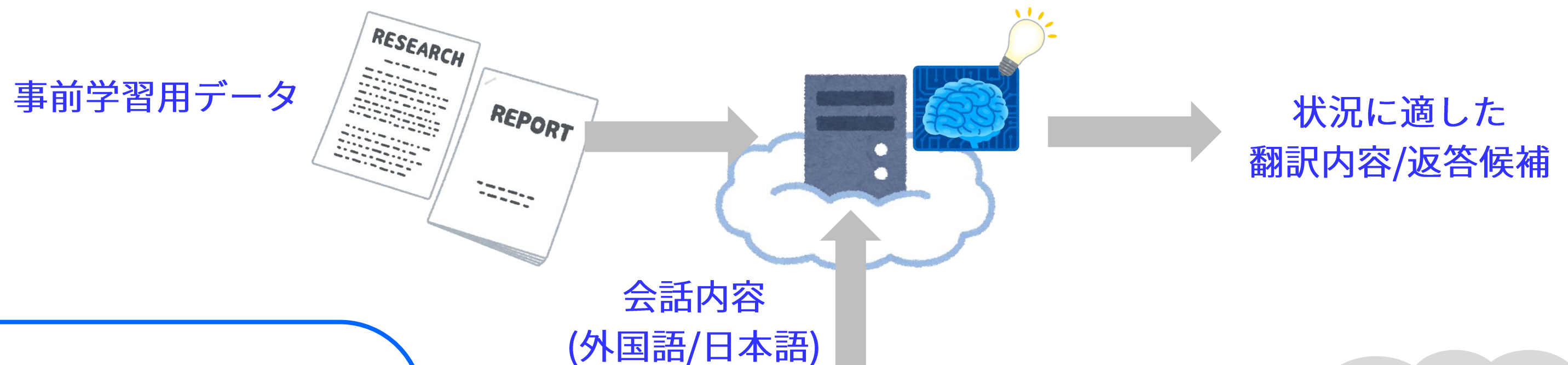
# ソリューション概要：リアルタイム会話アシスト

## 会話の中で自らの体で聞く・話すことをリアルタイムにアシスト



# ソリューションイメージ：分析

## 事前学習と取得した会話情報を用いたリアルタイムAI分析



### ■より適切なアシストをするための準備

- ・関連する資料や作成資料を事前にAIで学習
- ・会話情報をリアルタイムに分析しAIで学習  
(相手や自分が使うキーワードを学習)

より状況に適したキーワードの  
提示が可能



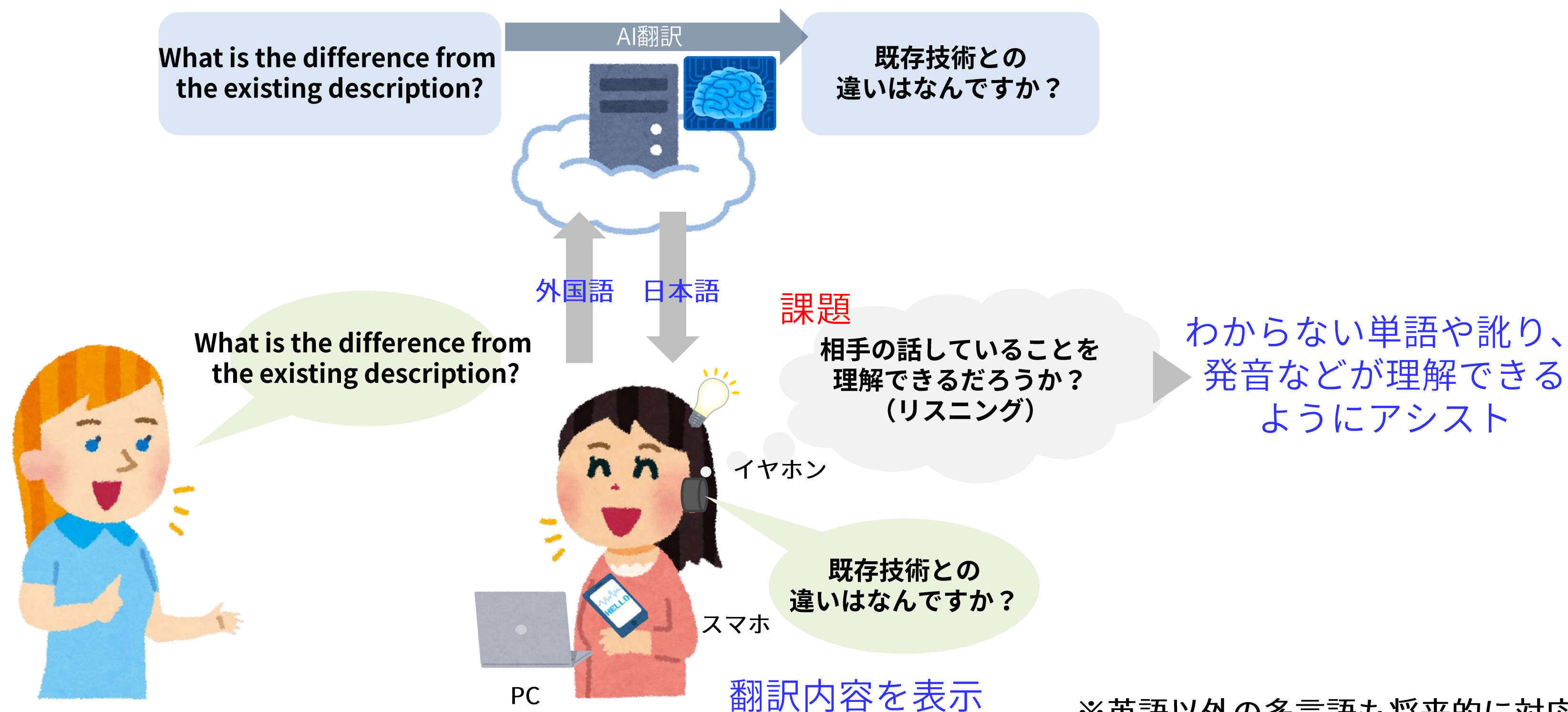
### 課題

専門用語が出てきても  
対応できるだろうか？  
(聞く)

文法とか単語がすぐに  
出てくるだろうか  
(話す)

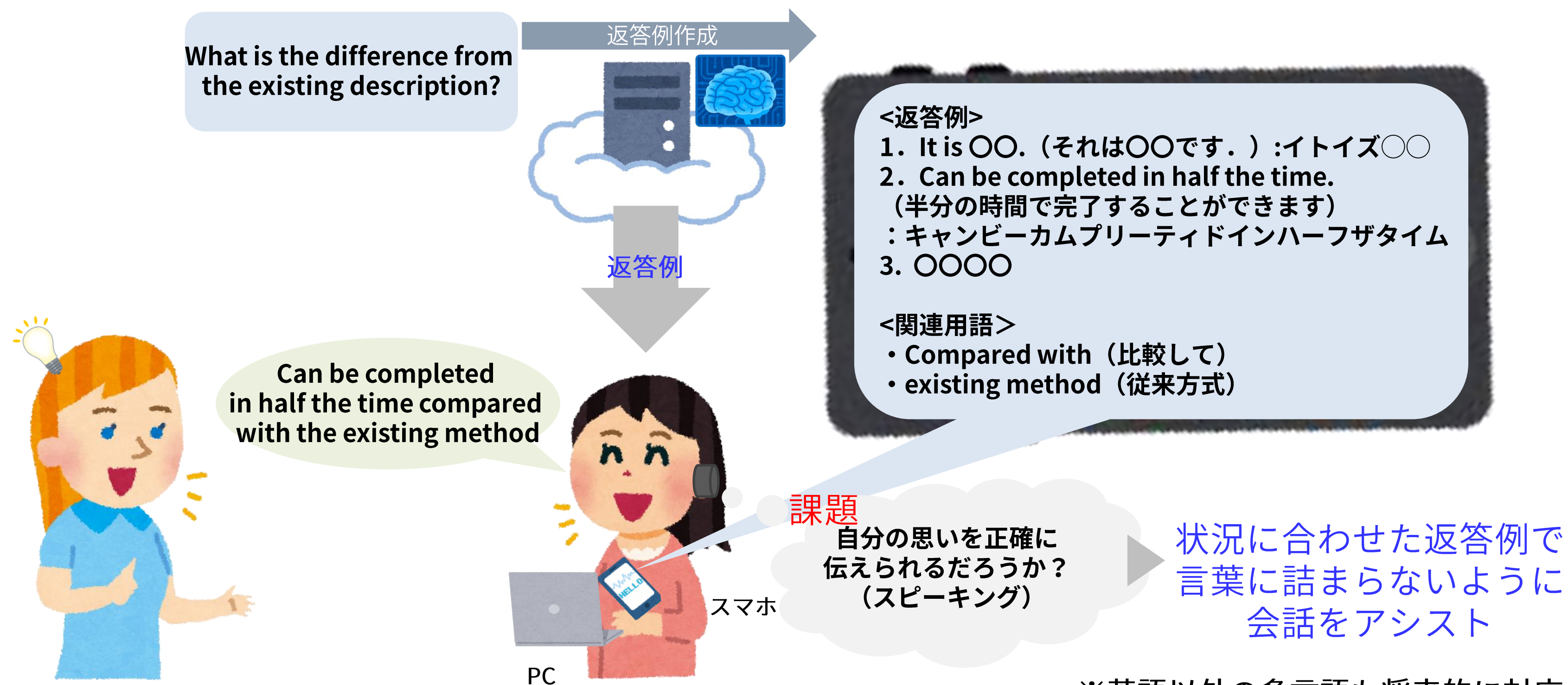
# ソリューションイメージ：聞く

## 相手の言葉をAIで分析、会話内容をリアルタイムに翻訳(字幕/音声)



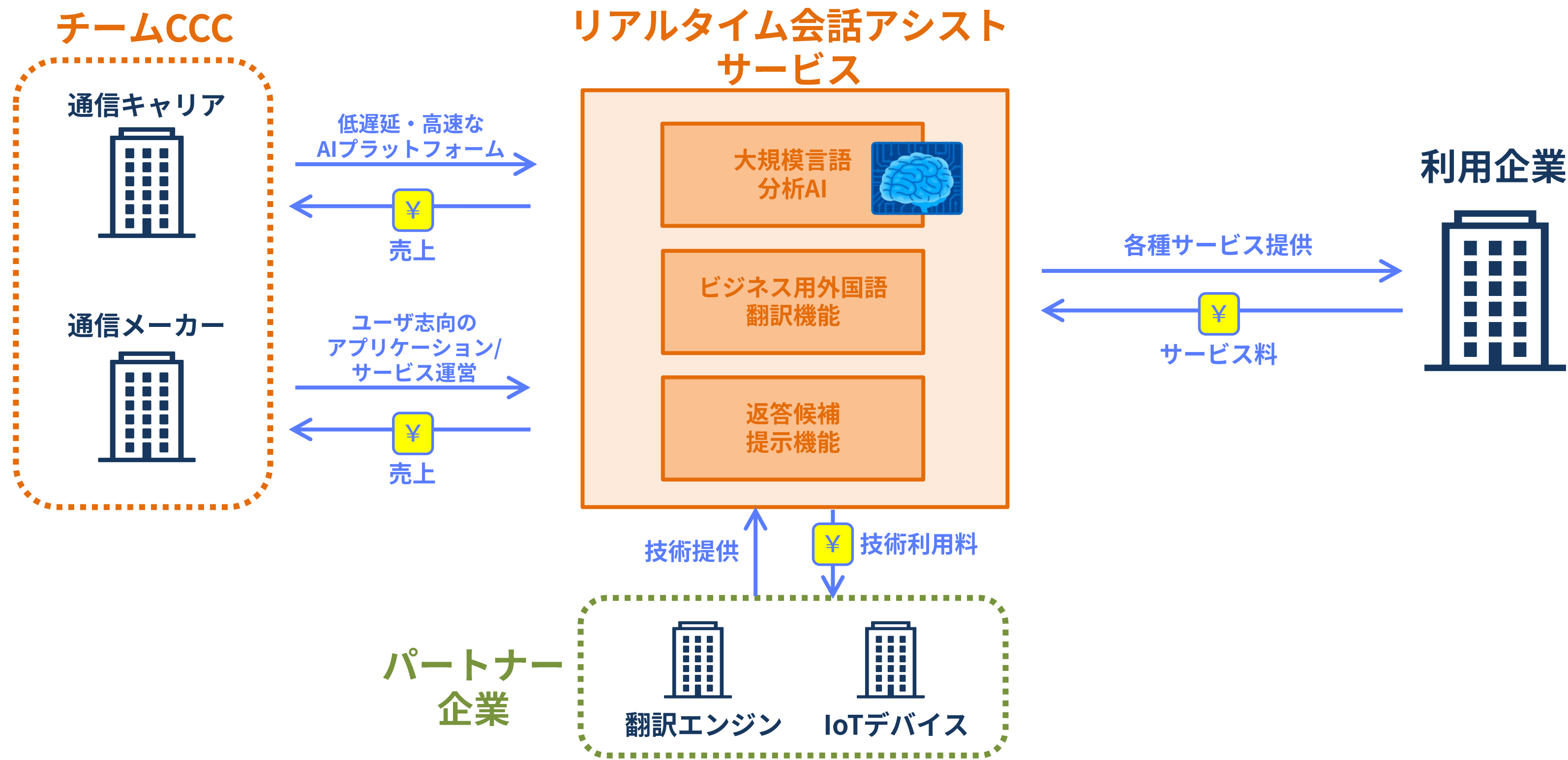
# ソリューションイメージ：話す

会話内容をリアルタイムに分析し，複数の返答例・推奨単語を表示(字幕)



※英語以外の多言語も将来的に対応

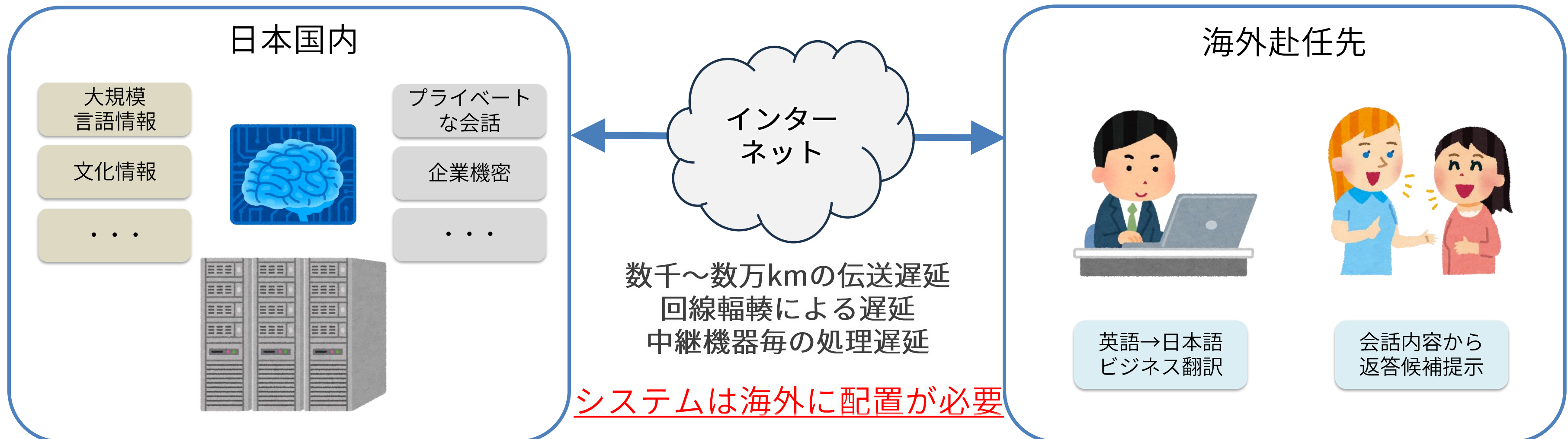
# ビジネスモデル (B to B)



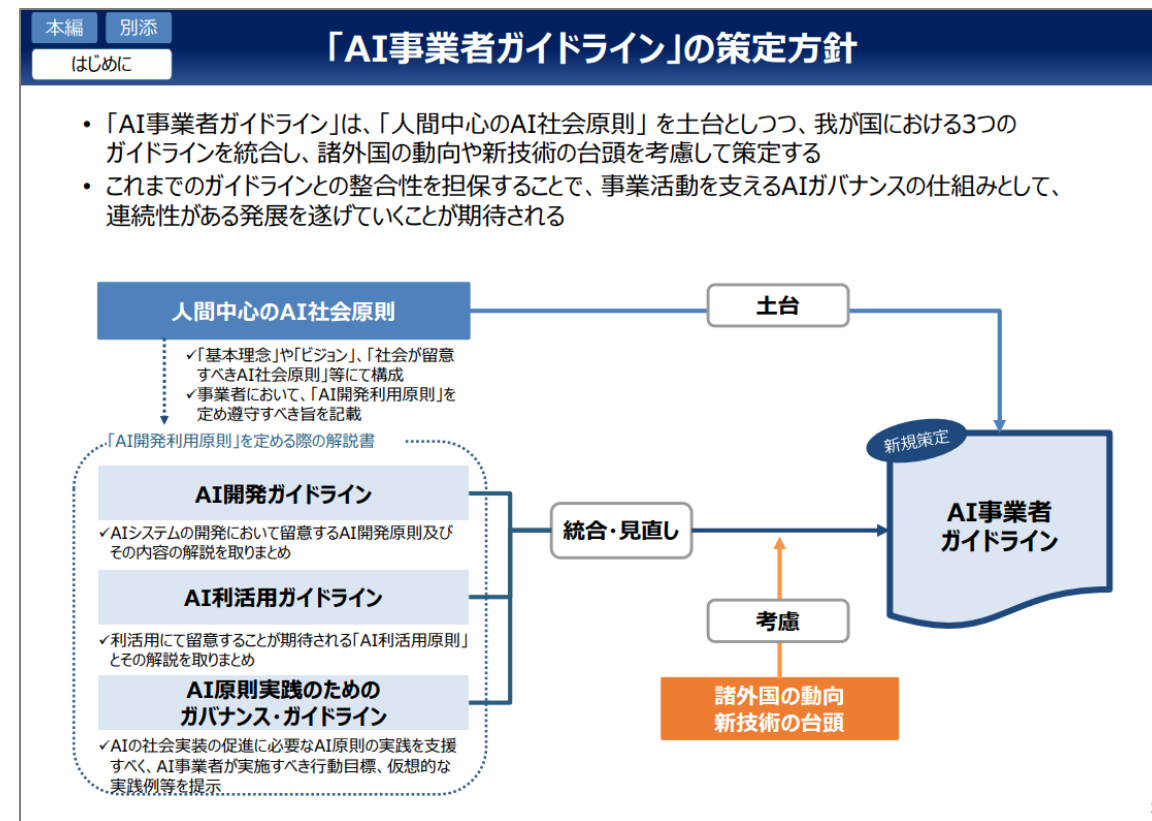
# ソリューション実現課題（政策支援の必要性）

- 高度なAI処理には膨大・複雑なデータ処理が必要で、低遅延性のためには海外現地に配置する必要がある
- 個人情報や機密情報等を含む場合はより厳密な管理が求められる

海外現地でのAI活用に向けた政策支援が必要



# 政策提言：海外現地でのAI利用促進



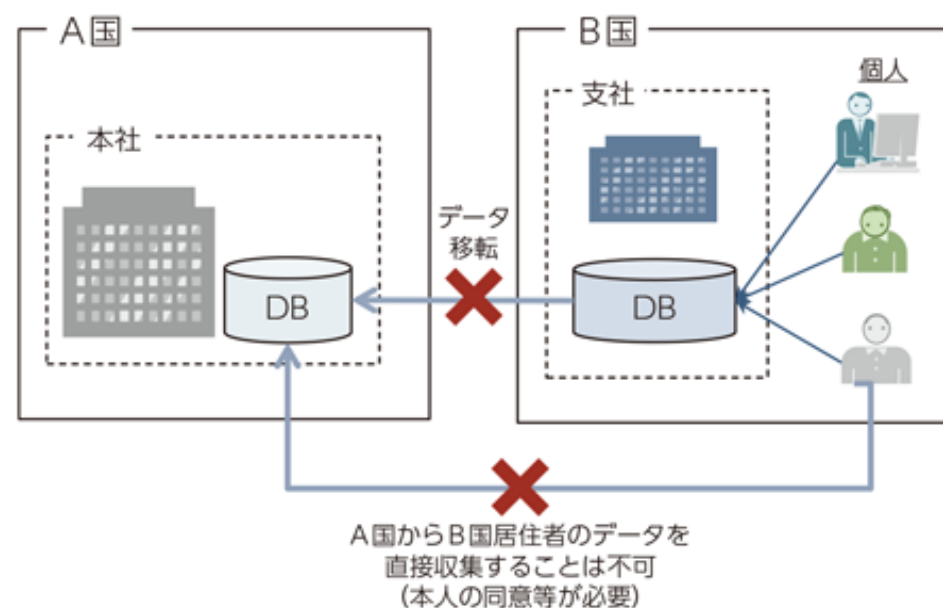
総務省 経済産業省「AI事業者ガイドライン(概要版)」より

- AI事業者ガイドライン（総務省/経産省）
  - AIの安全安心な活用の推進が目的
  - 国内での開発・提供・利用における方針が記載
  - AIモデル/アプリケーションが記載の中心

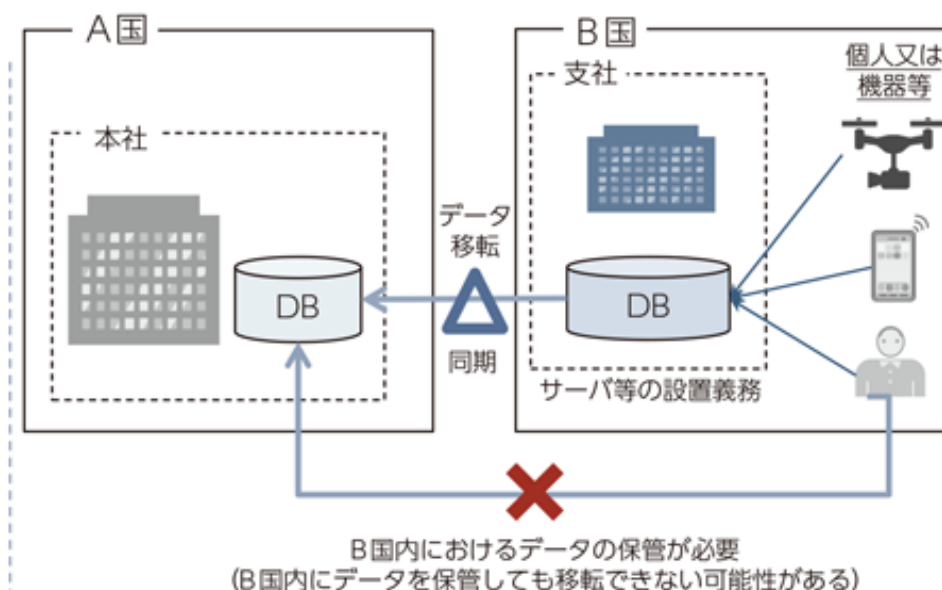
- データ保護に関する規定の追加
  - 各国での越境移転規制・データローカライゼーション規制に対する具体的な対応方針
  - 海外/国内データ取り扱い範囲の定義
    - ・ パーソナルデータの取り扱い(プライバシーの保護)
    - ・ 企業秘密情報の取り扱い(産業保護)
  - 違反時の罰則／捜査の取り決め

- 海外の通信インフラ設備利用の支援
  - 海外データセンター利用の安全認証制度
  - サイバー攻撃対策を講じるための技術支援や補助金
  - 海外データセンターBCP(事業継続計画)支援

①データの移転そのものを制限



②自国内におけるデータを保有・保管のために制限



# まとめ

---

1. ターゲットライフシーン 「日本人の世界が広がる未来」を目指し、企業がより海外進出できるように
2. 世の中の需要・意義 企業の海外進出が求められる中、専門スキルを持つ人材を現地に派遣し、海外現地人と直接的なコミュニケーションを通じて関係を築くことが重要
3. 達成に向けた課題 語学力不足の企業内ボリューム層を、海外現地でいかに活躍させるか
4. 我々の取り組み 「聞く」「話す」力をその場で高めるリアルタイム会話アシストを導入
5. 政策的支援の必要性 低遅延を実現するため、海外現地でAI技術を活用するための支援が必要
6. 提言内容 ①データ保護に関する規定 ②海外の通信インフラ設備利用支援